

研究者の横顔			
フリガナ	マツウラ ヨウスケ		
お名前	松浦 陽介	助成金額	50 万円
ご所属	公益財団法人 がん研究会 有明病院 呼吸器センター外科		
研究テーマ	“納得できる選択”を支える肺がん治療支援プラットフォームの開発 ―臨床・分子・主観情報を統合したShared Decision Making (SDM) の実装に向けて―		
1：研究者になろうとしたきっかけ			
<p>呼吸器外科医として臨床に携わる中で、治療方針が科学的に最適であっても、必ずしも患者本人の価値観や生活背景と一致しない現実に直面しました。治療の「正解」は一つではなく、患者ごとに異なる最適解を模索することこそが医療の本質と考えています。エビデンスと価値観を融合させる仕組みを構築したいという思いが、研究の原点です。</p>			
2：助成研究の内容紹介			
<p>本研究では、肺がん患者と医療者の双方向的な意思決定を支援するWeb／アプリ型プラットフォームの開発を進めています。臨床病期、分子プロファイル、QOL指標、患者報告アウトカム（PRO）などを統合し、AIによる予後・副作用予測モデルを構築。治療オプションを比較可能な形式で提示し、Shared Decision Making（SDM）の定量的支援の実現を目指します。</p>			
3：2の将来に繋がる結果予想・目標			
<p>臨床フェーズでは、SDM介入による患者理解度・納得度の向上を指標として、プラットフォームの有効性を検証します。成果は肺がん診療ガイドラインや臨床現場への実装につなげ、さらに他がん腫への横展開を見据えています。医療データと患者主観情報を融合した新たなエビデンス基盤の構築を目指します。</p>			
4：全国の RFL 関係者に一言メッセージ			
<p>RFLの理念である「ともに歩む」姿勢は、SDMの精神と重なります。患者と医療者が対等な立場で選択を共有できる医療文化の定着を目指し、研究を推進してまいります。現場発のエビデンスを社会実装につなげるべく、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。</p>			